

主日礼拝順序	司会 小島悦子 証詞 賈 晶淳 奏楽 裊 宣恵 受付 長谷川まつ子
前奏 Prelude	
讃美 Hymn	6 番 (つくりぬしを賛美します)
聖書 Scripture	ヨブ記 1 章 1-22 節 (旧 775p)
祈祷 Prayer	
使徒信条 A Apostles' Creed A	93-4-1 A
献金 Offering	
献金の祈り Offering Prayer	
報告 Report	
讃美 Hymn	518 番 (主にありてぞ)
証詞 Testimony	「ヨブの歌、問い、祈り」
祈祷 Prayer	
讃美 Hymn	452 番 (神は私を救い出された)
昼食 Commensal	
応答 Response	
祈祷 Prayer	
後奏 Postlude	* 讃美歌の時は座ったままでも結構です。

次週	司会 証詞 奏楽 受付・献金 会員日誌
	小川ひとみ・太田道子・前中榮子・坂百合子・高島敦子

今年の聖句	『見よ、新しいことをわたしは行おう。今や、それは芽生えている。あなたたちはそれを悟らないのか。わたしは荒野に道を敷き、砂漠に大河を流れさせる。』イザヤ四三の一九
今週の聖句	『わたしは裸で母の胎を出た。裸でそこに帰ろう。主は与え、主は奪う。主の御名はほめられたえられよ。』ヨブ記一の二一
本日の集会	世話人会 礼拝後
今週の集会	自然農の会 1月9日(火)午前9時～昼食 ASOハウス
来週の集会	主日礼拝 1月14日(日)午前10時半 証詞 太田道子氏 聖書研究会 1月17日(水)午後7時 夕食～ 石原氏宅 聖書 サムエル記下14章 担当 柳下千恵子氏 家庭集会 1月19日(金)正午 昼食～ 牧師館 聖書 創世記35章 担当 長谷川まつ子氏 読書 『アラミスと呼ばれた女』担当 雨宮道子氏
案内と消息	クリスマス献金 803,300円(37口、予算90万円) 北支区根津教会鍋谷憲一牧師ご逝去 1月3日(水)
特別献金	猪口由紀子氏(ろば・カフインのため)
先週集会報告	女子男計 席上献金
主日礼拝	12/31 9 2 7 18 14,800
自然農の会	1/9
聖書研究会	1/17
家庭集会	1/19

集会場所 〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 1-34-13 東京家政専門学校2階 <http://www.hyakunincho-church.com> 携 090(6176)5403
 連絡先 〒162-0066 新宿区市谷台町 14-1 塚越 TKビル701 賈 晶淳(カ ジョンスン) Tel/Fax 03(3351)0807 E-mail roba@chic.ocn.ne.jp

◇牧師日誌◇ No. 575
 明けましておめでとうございます。今年も皆さんに良い一年となりますことを祈ります。どうぞよろしく願います。
 昨年(2017)の暦は1月1日と12月31日が日曜日となり、礼拝場所を借りずに牧師館で主日礼拝を行なうことになった。31日の礼拝は週報の時間の掲載の間違ひも原因で、礼拝の時間を少しずらして11時30分から始めた。この日は赤尾さんのイタリアから息子ご夫婦とお孫二人もお見え賑やかな会となった。
 昨年のCSクリスマス会は12月23日(土・祝日)に初めて向ヶ丘遊園の赤尾氏宅を借りて初めて行なった。広々とした部屋とすぐ隣に生田緑地公園があり子どもたちがいろいろと楽しむことができた。今回のサンターさんは翌日の西片町教会のサンターを控えているサンター役の大忙しい小川和男氏にお願いした。この日お孫さんが二人出席。新参加者は小川ようちゃんと泉谷知花ちゃん、これまで一番多い14人の子供が参加した。会を重ねての事だと思いが前は祖父母たちが頑張っていたが今は親御さんの動きが自然になりつつあり、三世代間の交わりがとてとても気持ち良いものになっている。子どもたちも成長しCS会に参加しなくなった子もいる中、一番の若い見崎類君も一年前とは随分動きが違う。子どもたち皆が可愛く見ているととても幸せな気持ち。この日類君のお祖母ちゃんは風邪でダウン。
 生田緑地公園は広く、「川崎市立日本民家園」や「かわさき空と緑の科学館」や「岡本太郎美術館」、小高い山の上には山城などの跡もあり大人としても楽しめる場所だと思うので赤尾氏宅を訪れる方にはお勧めしたい場所である。

◇会員日誌◇ 権田倫子
 教会の皆さまへ
 この場をお借りしまして新年のご挨拶を申し上げます。今年の正月3日間は良いお天気に恵まれ、家族とゆっくり過ごすことが出来ました。近くの玉川上水を歩いてみますと、今までなかった所に新しい道や住宅街が出来、どんどん街の様子が変わって来ていることに気が付きます。3年前まで40年余り、小平市内全域を訪問し、記憶にある景色が変わりつつあることを実感しております。日本全国のあちこちで都市計画の名のもとに都市の中の山里が失われて行く現実があります。平成の時代も残り少なくなりましたが、平成の30年とはどのような時代であったのでしょうか？日常生活において、西暦を使う事も多くなりましたが、遡って前の時代を考える時は、未だ元号で考える習性から抜けきれません。私にとっての平成は人生の盛りの時で、がむしゃらに過ぎて来た年月になりそうです。昭和の時代から担ってきた職能団体の役職の責任も若い方にバトンタッチし、これからは、身軽になって、地域の仲間との繋がりを深める事が出来たらと考えております。母の代から関わりのある婦人之友読者の集まり「友の会」の活動には、永年会費会員のよう参加でしたが、貧富の格差拡大した現在の社会状況の中、恵まれた環境にいる専業主婦中心の会の活動については疑問を持ちつつも、もう暫くは関わりを続けてみようかなと考えております。
 徒歩や自転車30分以内のお仲間として、世代間交流の場「ほっとスペースさつき」「ほっとスペースきよか」に置ける交流を通して、92歳のお友達が出来ました。「私は誰でしょう？」と時々電話がかかってくるのですが、好奇心旺盛、記憶力確かで、今までどのような時を過ごされてきたのか、とても興味があり、時々自宅を訪ねて、過去の経験話を聞かせて頂いております。
 先のクリスマス礼拝の証詞「今歌う新しい歌」を通して讃美歌とキリスト教との深い繋がりを、讃美歌を精一杯歌うと、不思議と平安を与えられる事を体験致しました。年齢を重ねて、だんだんと声が気持ちよく出てくるようになり、自分の体調のバロメータにもなっています。